

## 2014年度の目標

	2014年度目標
二酸化炭素排出量	2012年度以下 *959,737.77kg-CO <sub>2</sub> <small>平成24年度 電気事業者排出係数 0.663 kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用した場合</small>
水使用量	2005年度比30%削減
一般廃棄物排出量	2006年度比48%削減
グリーン購入	事務用品グリーン購入 30%以上
環境PR活動	展示会、セミナー、見学会、 研修会の実施 環境優良商品・環境配慮型商品の販売
化学物質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取扱っている化学製品のSDSより 含有する化学物質を把握</li> <li>・年度末に在庫として購入した 化学製品の数量を集計</li> <li>・PRT R法に該当する物質の在庫量を集計</li> </ul>

## 全体の取組状況の評価及び見直し記録

2014年5月29日

代表者 印	環境管理 責任者 印
吉岡	黒川

① 環境管理責任者は以下のことを確認し、必要な処置を取ります。

		問 題 点	対策・改善内容
環境活動計画が 予定通りか	適	社内のグリーン購入もお客様への環境優良商品のPR活動も最大の敵は『コスト』	社内の勉強会やお客様への展示会を実施しこまめに軌道修正していきたい。
法律を守っているか	適	遵守している	
前回の全体評価により行われた改善の効果	有	内部監査・緊急事態訓練の実施方法について	エコアクションだけでなく、企業活動としての目標管理や安全管理に活用していきたい。
取組活動が、事業所にとって有意義かどうか	有	数値的な結果が頭打ち状態である。	取組の継続とより効果的な取組の検討を営業活動の中に取り入れていきたい。

② 代表者は、①の結果より以下のことを行います。

	必要性	変更の内容
環境方針の内容変更	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	特にありません。
環境目標、環境活動計画の内容変更	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	変更はありませんが、経営環境が変化している中、営業における環境活動のとらえかたも見直していきます。また、環境活動を実行する上で安全面への配慮も取り入れます。
その他、環境経営システムの内容変更	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無	特にありません。

## 総括

---

安倍政権が基盤を確立し、閉塞感漂うデフレスパイラル経済からの脱却に向け日本経済が大きく舵を切った1年となりました。私たちを取り巻く経済環境もアベノミクス3本の矢による経済政策がフォローとなり、建設業・製造業ともに明るさの見える状態に戻ったのではないのでしょうか。

さて、平成25年度は6月に8年ぶりとなるゴールデンフェアを開催し、15000人に迫る集客を実現しました。創業100周年を5年後に控え、環境経営の面に於いてもこれから進むべき方向性を見いだす絶好のチャンスとしてとらえ、多くの関係各位より高い評価を得ることができたと思っております。

我が社は建設・産業資材のトータルサプライヤーとして商社機能の強化を軸に、エコアクション21を環境経営の主体として捉え、法令遵守をもって今後もより一層力強く推進してまいります。

平成26年5月



吉岡幸株式会社  
代表取締役社長 吉岡正盛